

日本ボランティア学習学会 in おおいた 第3分科会 報告

本学会第3分科会のテーマは、「学生のグローバルな活動実践から広がるボランティアの可能性と未来」。学生主体で参加者は33名、進行コーディネートは日本文理大学工学部建築学科2年中西涼太君が行った。中西君自身も同大学人間力育成センターに所属するボランティア実践者である。

グローバル化の進展で、世界では貧困、難民、環境汚染等の当事国だけでは解決できない問題が起こっている。一方、国内でも多発する自然災害の発生等は世界各国の協力、また少子高齢化は外国人との共生なしには対応できないだろう。今や国内外の境界はなくなり、グローバルな視点と活動が豊かな未来を創造するキーワードとなっている。国連が2030年に向けて定めたSDGs（持続可能な開発目標）では、「貧困をなくそう」「飢饉をゼロに」等17の目標を下に、誰1人置き去りにしない世界を目指している。

このような社会状況の中、国内で国際を意識している活動、国外でのワークキャンプ活動、国際をテーマに世代をつなぐ活動、国際は様々な分野につながっていることから様々な学生ボランティアをつないでいく活動について、5つの事例の発表を行った。



発表1：

グローバルワークキャンプ in 阿蘇（熊本県立大学文学部英語英米文学科3年 戸田千晴さん）：

日本人・外国人の学生各50名が阿蘇青少年交流の家に3泊4日で集い、交流、そして社会課題について話し合う活動。異なる言語、文化で育った若者が集い、それぞれの置かれた社会を通して「平和」「環境」「経済格差」「ボランティア」をテーマに、自分たちにできるアクションプランを立てた。

発表2：

ユネスコみらいミーティング in 大分（日本文理大学工学部機械電気工学科4年 塩崎克樹くん、同大学工学部情報メディア学科4年 梶原百花さん）：

高校生を対象にユネスコ活動の学びを大学生が企画運営する活動。特に、SDGsの目標12「生産と消費」についてフェアトレードを題材としてワークショップを開催。「教えることによって、もっと多くの学びがある」ことが大学生側の気づきとなった。

発表3：

国際ボランティアワークキャンプ in ASO（熊本高校2年 福田莉万さん、同高校1年 坂野滉太君、熊本学園大学付属高校2年 下川光輝君）

高校生が企画運営するワークキャンプ。高校生100名と留学生50名が阿蘇青少年交流の家に2泊3日で集い、国際とボランティアをキーワードに、「多文化共生」「食」「自己表現」等の分科会活動を中心とした集会である。学校活動では得ることができない社会実践や高校の枠を越えた高校生のつながりは、かけがえのない学びになった。

発表4：

グローバルワークキャンプ・タイ派遣プログラム（熊本県立大学総合管理学部2年 山野貴絵さん）

タイ王国北部のチャンライにあるミラー財団でのオリエンテーション、山岳民族のアカ族の村で小学校での交流、植林活動、ダム建設を行うワークキャンプ。アカ族の人たちと交流をする中、彼らがタイや他の少数民族との共生している状況からグローバル社会で異なる文化を尊重しながら生きてく大切さを学ぶと同時に近代化により失われていく自らの文化や伝統、知恵を継承していくことの大切を学んだ。

発表5：

全国学生ボランティアフォーラム（千葉大学法政経学部4年 青山聖君）

毎年3月に開催される全国学生ボランティアフォーラムの企画運営の裏側の苦勞、ただ、その苦勞は全国600人以上の学生がつながっていくことで達成感に変わっていく。青山君の個人のボランティアとの関わりは、ボランティア活動＝学校の単位取得から始まり、多くのワークキャンプに関わるようになった経緯がある。彼の経験から、ボランティアの魅力が発見できるフォーラムについて言及した。



発表後の参加者とのディスカッションでは、活動で壁にぶつかったことも多くの学びとなり、さらなる成長となったこと等が活発に議論され、今「後の活動にさらに多くの学生を巻き込んでいきたい」、「学生ボランティアの輪を拡げていきたい」と盛り上がりを見せた。

日本を、そして、世界を元気にする目標として前述したSDGsの17の目標における課題はつながっており、私たちの身近な生活の1つひとつが地球規模の課題と密接につながっていることを学ぶ機会となった。自分自身の社会での存在を考え活動することで、世界は変わっていく。また、世界の様々な課題を知ることで、忘れ去られた大事なものを思い出すことができることを再認識できた第3分科会の活動であった。

まとめ

「学生ボランティアのグローバルな活動で大事なことは、グローバル社会を広く学び、その学びと普段の生活を関連づける力を磨き、異なる事に敬意を払いながらも、自分たちの伝統的な知恵や文化を大切にしながら行動することである。」

(熊本市国際交流振興事業団 八木浩光)